

# 月 1!!Global☆

## —自由な発想を from YJK—

|     |  |
|-----|--|
| 代表者 | 弘中眞子（経済B 3年）   |
| 構成員 | 和田聖菜（経済B 3年） 児玉聖治（工学B 3年） 山本祐司（工学B 4年）<br>宇畑豪志（経済B 3年） 平野和（人文B 2年）<br>白土奈穂子（理学B 3年） 児玉龍之介（理学B 3年）<br>江川理菜（経済B 3年） 中川幸亮（経済B 3年）<br>板谷朋幸（工学B 3年） 持溝桂介（工学B 3年）<br>喜納一貴（工学B 4年） 河村道雄（工学B 4年）<br>秋田真央（工学B 3年） 孫鳳基（経済B 2年）<br>BYUNJIHWAN（工学B 3年） 渡邊圭祐（理学B 2年）<br>稲葉哲也（理学B 3年） 吉松琢弥（工学B 2年）<br>佐倉航（工学B 4年） 溜和也（経済B 3年）<br>兼広明生（経済B 3年） 井上翔太（理学B 3年） |

### 1. 昨年度からの進歩点

- ① 小型・大型イベントを導入する
- ② 地域の人とも交流する
- ③ 企画側に留学生を取り込む
- ④ 1年を通して1つの作品を作り上げる

### 2. 成果報告

#### 2-1 小型イベントの状況

5月12日、6月16日、6月23日、7月17日、に小型プログラムを開催した。1か月に1・2回しか開催できず、小型プログラムはあまりうまく作用していなかったと言える。うまく作用しなかった原因としては、小型イベントの主催者が全て代表者と副代表者のみであったことがあげられる。2人ともが参加できない日には小型イベントを開催することができなかった。7月以降には、夏休みや大型イベントと重なり、実行できず断念した。

#### 2-2 中型イベントの状況

表1より、中型イベントは毎月異なる担当者によって運営されていることが分かる。4月は今年度初めてであるということから、非常に人数が増えた。新学期に入って最初のイベントでは参加者が増えたが、その他は平均して35名程度であった。前期には留学生の企画者を募集することができなかった。そこで、12月の中型イベントで、留学生を企画側に取り入れることができた。留学生を含むグループで企画運営をすることで、留学生の企

表1 中型イベントの状況

| イベント月 | 行事                 | 参加人数 | 内留学生 | 担当 |
|-------|--------------------|------|------|----|
| 4月    | Welcome Party      | 115名 | 13名  | 弘中 |
| 5月    | 運動会                | 61名  | 10名  | 山本 |
| 6月    | たこ焼き作り             | 48名  | 13名  | 安藤 |
| 8月    | 山口市散策              | 27名  | 7名   | 平野 |
| 10月   | 新留学生 Welcome Party | 80名  | 36名  | 矢野 |
| 11月   | 津和野地域復興イベント参加      | 37名  | 17名  | 平野 |
| 12月   | 紅白ミニゲーム大会          | 32名  | 8名   | 児玉 |
| 1月    | 日本のお正月ゲーム          | 31名  | 7名   | 上杉 |
| 3月    | バレーボール大会           | 28名  | 7名   | 斎藤 |

画サポートのみでなく、新しいアイデアとの出会いがあり、留学生、日本人学生ともに成長できたと言える。また5・9・2・3月のイベントでは中高生や社会人も参加した。外国人も山口大学の留学生のみならず、山口県立大学の留学生や、山口市内の小学校でALT教師をしている人も参加し、幅広い交流を行うことができたと言える。

11月には津和野へ行き、地域復興として津和野市が行っている謎解きイベントに参加し、島根県ではあるが、地域復興に貢献した。

### 2-3 大型イベント（冬）の結果

冬の大型イベントでは萩をまわるミッションツアーを行った。イベント内容としては、初日にはグループ対抗とし、体育館を使用してミニゲームをしたり、全員で1つのダンスを覚えて踊ったりした。2日目には初日とは異なるグループを結成し、「謎解き」をしながら萩の町を観光した。

夏の大型イベントの反省としては、企画者、参加者の募集が遅かったこと、企画者内での仕事に差があり負担が均等に分配できなかったことが挙げられる。その反省を生かし、企画者の募集をイベントの約3か月前から始め、企画会議は2か月前から週に1、2回行った。早めに企画者全員が決まったため、テスト週間前までに具体的な内容を決定することができた。2つ目の反省に関しては、企画会議初期に係を決め、役割分担をした。係ごとで仕事を進め、企画会議の際に全員と共有することで、企画者全員がイベント全体を把握できるようにした。また、中国人留学生を企画側に取り込むこともでき、留学生1名、日本人12名、計13名で企画運営をした。

当日は2月12,13日で、「山口県秋吉台青少年自然の家」で1日目の活動と宿泊をし、2日目は萩博物館周辺で活動した。多くの留学生に参加してもらうために、企画者の中国人留学生から助言をもらい、参加者募集を早めに行い、参加日時が留学生の帰国時期と被らないように注意した。結果、参加者23名で内留学生10名と留学生が参加者の約半数を占めた。留学生の中には全く日本語が理解できない人も数名おり、ゲームのルール説明には非常に苦労した。しかし、参加者内で頑張っって意思疎通を図ろうとしている様子が見られた。また、イスラム教の留学生も参加したため、提供する食事の豚肉の有無に注意するなど、企画側も異文化交流を行うことができた。夜には、ストーブの周りに国籍関係なく集まり、雑談をしている様子が見受けられ、大型イベントの魅力の一つである、身を以て「濃密な交流」を感じた。

### 2-4 1年間を通して1つの作品を作り上げる

結論として、作品を作り上げることはできなかった。当初は写真でモザイクアートを作る事を計画していた。しかし、写真の枚数が足りないこと、色合いがうまく合わないこと、製作するための技術が不足していたことから、製作を断念した。



図1 津和野地域復興イベントの様子



図2 冬の大型イベント初日のミニゲームの様子



図3 冬の大型イベントでのダンス練習の様子

## 3. 1年間を通して

この1年間で月1!!Global☆は多くの人に、世界へ飛び立つきっかけを提供できた。その具体的な例として、多くのイベント参加者が、イベント参加後にアメリカやカナダ、韓国、タイ、フィリピンなどへ留学することを決定した。このプロジェクトで初めて外国人と話したという学生もあり、その人が新たな世界を切り開くための場を提供できたと言える。次に、流動的スタイルにより、1年間で多くの人が企画に携わった。その結果、企画に参加した学生の内何名かが新たに学生団体を立ち上げた。また、企画者の様子を見ていたイベントに参加した高校生が、大学生になったら月1!!Global☆のような団体を創設したいと考えるほど、この流動的スタイルは、企画者本人のみだけでなく周囲の人にも強い影響を与えている。

昨年度からの進歩に関して、大型イベントや地域の人とも交流すること、留学生を企画に取り込むことは成功したと言えるが、小型イベントや作品作りを失敗し断念してしまった。来年度には企画に参加する留学生を増やすなど、成功点をより進歩させ、実現性のある計画を行うように工夫するなどの失敗してしまったことへの改善を行っていく。